



石巻西高実況中継

～学校の情報や生徒の様子をリアルタイムで家庭に届けます～

平成29年4月12日 第2号

発行者：校長 伊藤 俊

－平成29年度 入学式 式辞－



宮城県石巻西高等学校 校長 伊藤 俊

ただいま、入学を許可いたしました新入生の皆さん、入学おめでとう。これは、皆さんの努力の成果であることはもちろんですが、同時にご家族や先生方や多くの方々の温情と支えがあって始めて手にした入学であります。

本校は、1985年、昭和60年に県内で73番目に開校した、比較的新しい学校です。校訓の「敬愛」「探求」「進取」のもとに学んだ卒業生約6500名は地元県内だけでなく、全国各地で活躍しています。

開校から30年以上経ちますが、現在もこの気風が脈々受け継がれています。皆さんも従来の既成概念にとらわれることなく、多くのことにチャレンジしてほしいと思います。

さて入学するにあたり、新入生の皆さんに話しておきたいことがあります。

この3年間に様々な人と出会い、多くのことを学ぶこととなります。その際に必要なことは誠実な気持ちを持つことに尽きると考えています。素直で謙虚な姿勢で学習や部活動に取り組めば、学習効果もあり、技術の習得も早くなります。表裏なく相手を尊重するような付き合い方を心掛ければ、一生の友を得られるはずです。誠実な気持ちを是非忘れないでいただきたいと思います。

誠実さについては、東京大学名誉教授の本村凌二（もとむらりょうじ）氏がこのようなことを話しています。「ローマ帝国が減んだのは、ローマ人の誠実さが失われたからだ」

紀元前8世紀に、現在のイタリア半島ローマに建国され、最盛期には地中海全域をその掌中に収めるなど空前の繁栄を誇るなど、現在も含め人類史上最も豊かで至福な時代だったと言われた帝国です。

ローマ人はオリジナリティーに欠けるものの、自分達より優れた技術を持つ異民族を素直に認め、その技術を自分達で受け入れ改良しました。根底にあったのは自分達よりも優れたものを認めるという誠実さであります。

しかし、帝国末期になってくるとその誠実さが失われていきます。異民族やキリスト教に対する排斥運動をおこします。また、歴代の皇帝による政治腐敗も行われるようになります。ローマ帝国の興隆の発展を支えた誠実さが失われてしまったというのです。

さて、我が国は今まで様々な困難を乗り越えて繁栄を築いてきました。明治維新では他のアジア諸国に先駆けて欧米文化を取り入れ近代化を推し進めてきました。先の大戦後は物づくりをベースにした高度経済成長によって敗戦の危機を乗り越えてきました。ここにはローマ人と同様、既存のものを素直に受け入れ、より洗練されたものに仕上げる日本人の誠実さがあったからだと思います。

世界には解決しなければならない課題が山積しています。貧困や飢餓、民族的、宗教的な対立や紛争など数多くの問題が存在しています。我が国でも、経済格差、人口減少、国際競争力の低下、そして私たちの住むこの地域では、震災からの復興に関わる様々な問題も起こっています。

このような課題を解決して、これからの社会の日本の担い手となるのが君達、新入生の皆さんです。西高での3年間はそれらを乗り越える術を身に付ける期間でもあります。

相手の良いところは素直に認め受け入れる、表裏なく接する。誠実な態度や気持ちさえ持っていれば、これらの課題を解決するためのヒントや知識・技能、生き方をどんどん吸収することができるはずです。

保護者の皆様、本日はお忙しい中御出席いただき誠に有難うございます。本日の入学について心からおよろこびを申し上げます。一言皆様に申し上げます。生徒1人1人にはさまざまな個性があります。教職員全員でその全てを受けとめて生徒達に接してまいります。良い部分はどんどん伸ばし、悪い部分に対しては自分子どもを叱るように接する場面もあると思います。生徒達の健全な成長と豊かな個性を育むためには、学校と家庭がそれぞれの役割と果たしながらも、お互いに補完して連携することが何より重要と存じます。どうか、我々の方針をご理解いただき、ご支援とご協力をお願いいたします。

新入生の皆さんが、一日も早く本校の生活に慣れ、忙しくも充実した学校生活を送られることを期待して式辞といたします。

